

保護者自ら立ち上げた歴史のある民間学童 (どろんこクラブ、わんぱくクラブ)の協議会

歴史

1980年代、共働きの家庭が子どもを預けるところがない！
保護者自らの手で学童を作ってきた
支援員探し、場所探し・・・
1981年どろんこクラブ、1991年わんぱくクラブ発足

大府市の当時8校区すべてに、1つずつ民間学童ができた
→市連協発足 市内の学童の協力体制が確立した
☆保育環境、保育内容の充実
☆支援員の処遇改善
☆公設学童の設置 の実現のための運動

1994年 公設学童開設
→しかし 児童館での実施、保育内容の制約、開所時間が短い
支援員さんが継続雇用されない
→十分な条件と言えず
3つの民間(どろんこ、わんぱく、北山かけっこ)は残ることを決める
その他の学童は、公設学童に利用者が移動

引き続き、市連協は公設学童に保育内容について要望をしてきた
→専用棟の設置、開所時間延長、障害児の6年生までの受入
すべての6年生までの受入(県下一番)

現在の大府市
公設学童と民間学童→保護者にとって「選択肢」があるということ
保育環境の充実
民間学童の運営の難しさ

大府市連協の活動目標
第一に・・・存続していく(短期的な目標)
第二に・・・公設民営に近い運営状況を目指す(中長期的な目標)

→大府市全体の学童保育について考え、意見してきた

会則の第1条

本会は、大府市の学童保育運動の充実、強化を図るため、次の事業を行う。

- ① 学童保育所間の連絡調整
- ② 学童保育充実のための調査、研究
- ③ 学童保育に関する理解を広げる運動
- ④ 学童保育所づくりに対する援助
- ⑤ 学童保育所指導員の研修、待遇改善のための運動
- ⑥ その他、必要な事業

①学童保育所間の連絡調整について

- ・ どんろこ、わんぱくの代表父母が集まり、それぞれの活動の報告を毎月行っている
- ・ 説明会の開催の仕方、市への交付金申請の仕方などの確認
- ・ コロナ禍の保育

②学童保育充実のための調査、研究

- ・ 県連協や全国連協の主催の学習会や研究集会に参加
- ・ 他市町の放課後児童健全育成事業の実施状況を確認

③学童保育に関する理解を広げる運動

- ・ 支援員、保護者、地域で子どもを育てる「共同の保育」の視点
- ・ 地域に愛される学童・・・地域の行事へ参加
- ・ 「児童の健全育成」を促すものである

④学童保育所づくりに対する援助

- ・ 放課後クラブが創設されたころ、すでに保育実績のあった民間学童
- ・ キッズクラブがどんろこクラブを視察
- ・ 現在は、放課後クラブと支援員同士の相互交流 →保育の質向上

⑤学童保育所指導員の研修、待遇改善のための運動

- ・ 各種研修に参加した場合は参加費補助
- ・ 放課後児童健全育成事業の交付金要綱の毎年の変更点を確認
- ・ 市の放課後クラブ健全育成事業を含む、子育て支援の動向を確認